

我社の協力会社 仙建工業（株）福島支店

福島軌道工業㈱の「安全を最優先に考える」取り組み



わたなべ としお
渡邊 俊雄

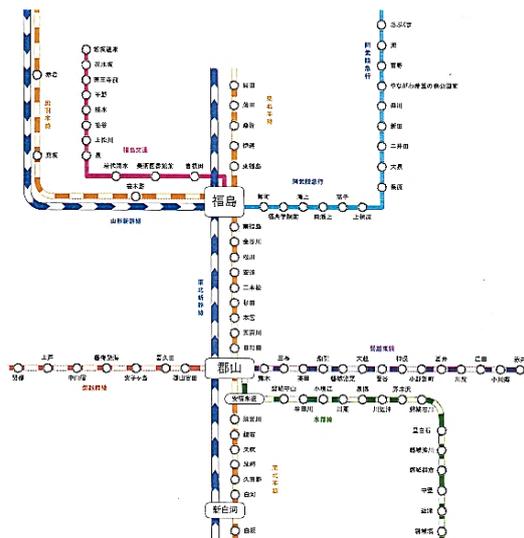
1. はじめに

弊社は、仙建工業株式会社の協力会社で福島中通り（福島県中央部）を中心とした線路の維持・修繕を担当しており、関係する線路はJR 東日本（在来線・新幹線）、JR 貨物、阿武隈急行線、福島交通飯坂線と多岐に渡り、3 作業所で施工している。

今回、弊社の重大事故発生後の取り組みと新社屋建設までの一部を紹介する。

2. 福島軌道工業㈱の概要

創立は平成 15 年 7 月 1 日で、今年 17 周年を迎えた。本社は福島県郡山市で福島県の中央に位置しており、3 作業所（福島作業所、郡山作業所、郡山新幹線作業所）において JR 東日本は県内の東北新幹線・東北本線・磐越東線全線、磐越西線・水郡線の一部、JR 貨物（県内貨物駅構内）、阿武隈急行線・福島交通飯坂線全線を担当している。



エリアマップ

これらのエリアを昼夜問わず、下記の経営理念に基づき、線路の保守メンテナンス業務及び冬季の除雪対応等に従事している。

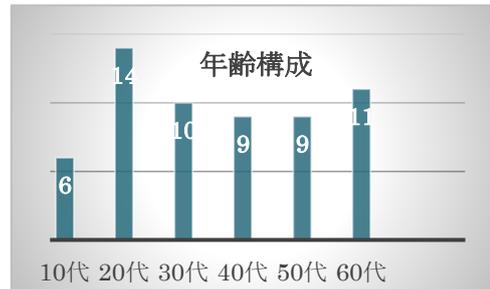
(1)経営理念

弊社は安全を最優先に以下の経営理念を掲げている。

- F1. われわれは、安全を最優先に考えます。
- F2. われわれは、誠実で責任ある施工に徹します。
- F3. われわれは、率先垂範を心がけます。

(2)年齢構成

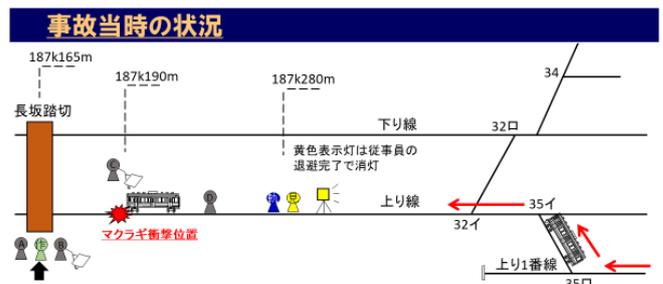
従業員数は 59 名（福島作業所 18 名、郡山作業所 22 名、郡山新幹線作業所 19 名）で、年齢構成は以下のグラフの通りとなっており、平均年齢は 40 才で、若い社員も多い会社である。



年齢構成グラフ

3. 安全を最優先に考える取り組み

平成 30 年 6 月 18 日東北本線(上)新白河～白河駅間で、弊社作業員がレール溶接準備作業時に諸車で運搬中のまくらぎ受台を列車に衝撃させる事故を発生させた。弊社の経営理念である「われわれは安全を最優先に考えます。」を大きく損なう事故である。



この事故を契機に、再発防止の取り組みが現場で確実に実施できるよう、従事員一人ひとりまで指導を徹底してきた。

(1)現場の実態

- ①保安体制の重要性は認識しているが、保安機器の取扱い・列車見張員数・防護対策・関係者間の打合せ・保安関係書類の記載方等個別の取扱いが理解不足などもあり、粗雑な部分があった。
- ②保安機器が線路閉鎖と同等の位置付けになっていることへの理解が不足していた。
- ③従事員は、上位職からの指示は、間違いのない



という意識を持っていた。

- ④軌道工事管理者及び列車見張員は、運転確認の会話や見張ダイヤの消込等の具体的な取扱い方の理解が不足していた。

(2)指導事項

- ①正しい保安体制に合った保安機器を計画し、必ず計画通りに使用する。
- ②列車見張員有資格者に対して臨時列車等の把握及び列車見張ダイヤの取扱いを徹底する。
- ③指揮命令系統とその重要性について周知徹底し、特に線路立入り時と退出時の確認は確実に遵守する。
- ④日々の防護訓練の継続により列車防護に対する意識改革を図り、「危ないと思ったら列車を止める」意識を浸透させる。

(3)訓練事項

- ①「基本動作の徹底」を図るため、全従事員が徹底して実施できるまで「線路立入り前のケジメ」の行動実施や「斜め片手上げ待避」等の実設訓練。「訓練で出来ないものは現場で出来ない。」ことを徹底。
- ②「受け声掛け声」を大きな声で実施。



線路立入り前のケジメ 成果発表会

(4)取組み成果

- ①現場での「線路立入り時のケジメ」や「受け声掛け声」の声が少しずつ大きくなった。
- ②点呼で、作業員からの発言も以前より多く出るようになった。
- ③安全教育と併せて階層別の研修を実施して、軌道工のレベルアップが図られた。
- ④C点呼で、作業の振返りの発言が多く出るようになった。

(5)今後の継続した取組み

- ①軌道工事管理者は、線路閉鎖による施工を基本として計画する。
- ②軌道作業責任者のレベルアップを図るために、保安ルールや作業手順等の教育を継続して行う。
- ③見張員の知悉度確認結果を踏まえて、弱点箇所の新指導教育を行い、見張員有資格者のレベル向上を図る。

- ④受け声掛け声等の声出しが一部まだ小さいので、常に大きな声で行うように繰り返し訓練指導する。特に、受け声を大きくしていく。
- ⑤毎月18日を「安全を考える日」に設定して、事故の風化防止と事故防止意識の継続を図る。



振返り検討会

- ⑥点呼立会や現場パトロールを実施して、保安体制のルールや基本動作の徹底及び現場でのWチェック等の履行状況を確認し、是正指導する。

4. 社員の意識向上と取り組み状況

(1)安全衛生大会



個人表彰

1年間の事故防止の振り返りと次の1年間の事故防止目標を設定するため毎年開催している中で、事故防止の取組みの優れた社員を個人表彰して意識の高揚を図っている。昨年は、新社屋で初めての大会を開催、訓練の最後に「事故ゼロ」と「社員の絆（和）をさらに強める」ことを願い、全社員でのタッチ&コールで締めた。



タッチ&コール

(2) ホワイトボードの活用

事務所からの出発前に実施するA点呼では、ホワイトボードを使用して指揮命令系統、作業略図、作業内容、作業手順、作業の役割分担、作業の勘所、注意事項、変化点等分かり易く指示・伝達している。



ホワイトボードによる指示伝達



ホワイトボード記載状況

(3) 列車防護

線路立ち入り前の現場点呼では、当日の担当者を指名し、担当者が「止まれ、止まれ・・・」を連呼しながら訓練を実施している。「危ないと感じたらまずは列車を止める。」意識が少しずつ浸透してきていると感じている。



現場点呼時の列車防護訓練

(4) W 確認の徹底（「1+3」運動の実践）

線路立ち入り時は“安心”して線路に入るために、「1」（「保安体制の確認」）を確実にいき、線路退出時には、“安心”して列車を通すために、「3」（①「仕上り状況」②「締結装置の締め忘れはないか。」③「置き忘れはないか。」）の確認を日々実践している。



線路閉鎖着手確認状況

5. 新社屋（本社）

郡山市の本社（含む郡山・郡山新幹線作業所）の他、福島に作業所がある。本社屋は令和元年10月に完成し、本社及び郡山・郡山新幹線作業所と一緒に在籍している。本社は、会社創立以来間借りが続いていたが、一昨年に起こした事故を契機に一念発起して、自分たちのシンボルを建設して「従業員が胸を張れる基地を創ろう！」と建設地探しに奔走し、約1年後、改元の記念すべき年に新社屋が完成した。落成式の1週間後に台風19号（令和元年10月12日）の厳しい洗礼を受けたが、事前の危機管理で建設地をかき上げしたおかげで浸水はせず、最小限の被害で済んだ。



新社屋

6. おわりに

弊社は、過去にも重大事故を発生させています。過去に自分たちが起こした事故を教訓とし、再発防止の取組みの継続が課題になっています。若い世代が多くなり、事故事象の共有が難しい反面、過去の事故にとらわれない、新しい発想で事故防止に取り組むことも期待されます。2年連続「重大事故の完封」を目指し、若い力とベテランが事故防止で融合し、鉄道輸送の「安全・安心」を築いていきます。

（福島軌道工業株式会社 線路部長）